

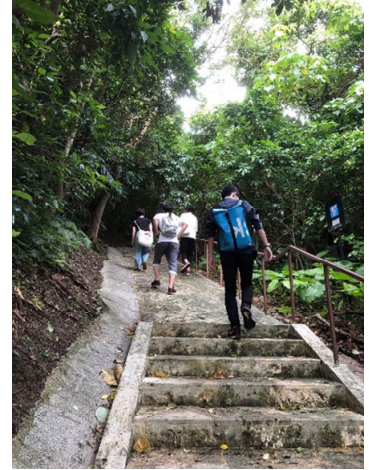
全国 YMCA ユースチャレンジプログラム 2019 報告書 「沖縄フィールドワーク」

京都大学 YMCA

1. プロジェクト概要と実施内容

【プロジェクト概要】

本プロジェクト「沖縄フィールドワーク」は、京都大学 YMCA 地塩寮の寮生有志 5 名が、慰霊の日 6 月 23 日に合わせて沖縄に足を運び、戦争の記憶を後世に伝える活動を行う様々な方のお話を伺い、沖縄戦について学び、その学びの内容を報告書にまとめ、様々な報告会にて共有し、「戦争の記憶の継承」についての問題提起を広く行うものでした。



【実施内容】

○事前勉強会

書籍や映像を用いて、戦争記憶の継承をテーマとした勉強会を行いました。

○フィールドワーク

沖縄戦に関わる様々な施設に足を運びました。スケジュールは下表の通りです。

6/21	6/22	6/23	6/24
アブチラガマ見学	チビチリガマ・シムクガマ見学	ひめゆり平和祈念資料館見学	海軍司令部壕見学
南風原病院壕見学	佐喜眞美術館見学	平和記念公園訪問	
沖縄 YMCA 理事長 知念一郎さんを訪問		対馬丸記念館館長 外間邦子さんを訪問	



アブチラガマ、南風原病院壕、チビチリガマ・シムクガマ、平和記念公園では戦後世代のガイドの方に案内して頂きました。沖縄 YMCA、対馬丸記念館では戦争を体験された方にお話を伺いました。

○報告書作成

フィールドワーク終了後、参加者5名の感想を持ち寄り、プロジェクトの報告書を作成しました。

2. このプロジェクトを通じて考えたこと

本プロジェクトでは、「記憶の継承」をテーマとして、書籍や映像を用いた事前勉強ののち、沖縄でフィールドワークを行いました。

終戦からもう75年が経とうとしている今、戦争の記憶が風化していくのを食い止めるには、戦争を経験していない世代が戦争体験者の体験や思いを語り継ぐ必要があります。ところが、表象不可能な体験、つまり戦争体験者が体験を言語化して語る中で零れ落ちてしまう要素が存在するのに、果たして戦争を経験していない世代がそれを語り継ぐことができるのだろうか？そのような、板挟みとも呼べる課題への取り組み方を探るべく本プロジェクトは出発しました。

フィールドワークの期間中は、戦争体験者・非体験者の両者からお話を伺いました。多くの戦争非体験者の方が、過去と向き合い、来訪者へ戦争を語り継いでいた姿、そして何より戦争体験者からの「きちんと勉強したら非体験者でも戦争を語るができる。」というお言葉には、とても勇気づけられるものがありました。

また、フィールドワークを終えて報告書を作る段階になって、メンバー各々の感じ方の微かな違いが浮かび上がったことがとても面白く感じられます。見聞きしたことはほとんど同じなのに、物事の捉え方は決して一つには収束していません。自分とは違う、他者のものの見方や考え方の可視化は、複数のメンバーで沖縄に行ったからこそ可能だったことでした。社会においても、そこに生きる一人一人が異なる考えを持つ中で、個人の体験・感想・思考を表明したり共有したりして一定の共通認識を作っていく営みが、「平和で公正な社会」の基盤作りになるのではないのでしょうか。

3. 今後、ユースチャレンジを希望する人へのアドバイス

ユースチャレンジへの応募を検討中の方へ。ユースチャレンジの魅力は、決して助成金だけではありません！ユースチャレンジを通して得られるYMCA内でのたくさんの発表機会は、なかなか他では得難い貴重なものです。たとえば本企画では、活動紹介ショートムービーの作成、本報告書の作成や、機関誌The YMCAへの寄稿を行いました。また、アジア太平洋地域のYMCAのユースが多く集まった世界大会（APAY）でも、このプロジェクトについて英語で報告する機会がありました。ちょうどこの報告書を作成している現在も、学生YMCA冬ゼミというプログラムでの活動発表の声もかかっています。このように、ユースチャレンジでは、YMCAの後援を受け、手持ちの活動を開かれたものにするための仕組みが整っています。魅力を感じた方は、ぜひ応募してみてください。

そして一步踏み込んで、ユースチャレンジに応募される方へ。上でも述べたようなユースチャレンジの仕組みを利用することで、あなたの活動は実り豊かなものになることと思います。ユースチャレンジは上に述べたようなサポートを得ることができる好機となるので、企画者の皆さんは1年間あるいはその後も継続して企画を成就させるためのビジョンを持っておくことをお勧めします。ぜひ、強固なビジョンのもとで、参加メンバーと協力しながら、企画を大成させてください！応援しています。